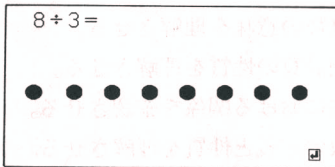
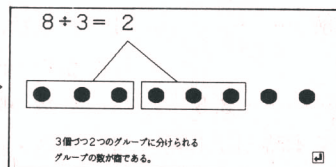


5. 実行画面の一例

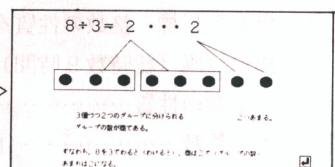
画面1から画面3は、プログラムREI-1の一例



画面1 課題の提示

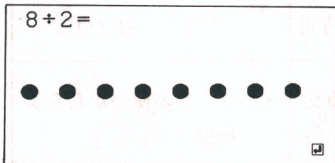


画面2 商の説明

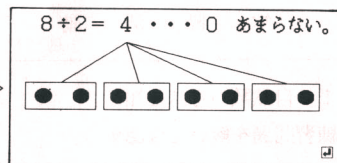


画面3 余りの説明

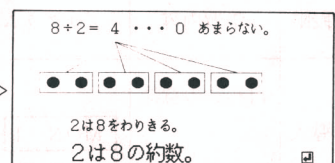
画面Aから画面Fは、プログラムREI-2の一例



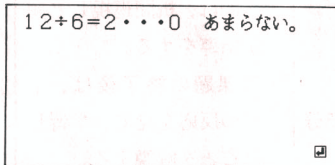
画面A 課題の提示



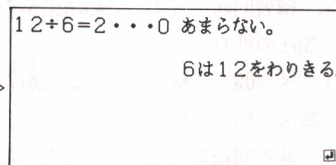
画面B 余りの説明



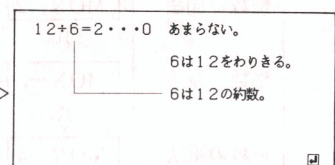
画面C 約数の説明



画面D 余りの説明



画面E 割り切れる



画面F 約数の説明

コースウェアによる学習は、前ページのプログラムの流れで行った。MONは問題形式、REIは例題形式のプログラムである。

ここでは、REI-1とREI-2のプログラムの実行画面の一例(前掲)について述べる(それぞれのねらいについては、2. コースウェアによるプログラムの作成を参照)。

- (1)画面1は、課題の提示である。8個の●は、割られる数をモデルとして表したものである。
- (2)画面2は、商を2つのグループとしてモデルにしたものである。
- (3)画面3は、余りを示したものである。
- 以上が  $8 \div 3$  の画面の説明である。これと同じパターンで、他に4つの例題を示した(画面略)。
- (4)画面Aは、REI-1と同じモデルによる問題である。
- (5)画面Bは、割り切れることを強調した(画面略)。

(6)画面Cは、割り切る数が約数であることの提示である。

(7)画面D~画面Fは、約数の定義について、1ステップずつ説明したものである。●のモデルから離れて、数式だけで考えさせるようにした。

画面A~画面Fと同じパターンで、 $12 \div 4$ 、 $24 \div 6$ の例題を、別に示した(画面略)。

検証では、初めから各人に勝手に進めさせずに、最初のパターンはおなじ歩調で説明を加えながら進め、そのあとでおのおののペースで進めさせた。その間に、机間巡視をして、個別指導を行った。

REI-4についても、●をモデルに使い、REI-2と同様のパターンで説明するようにした。モデルが同じため、生徒の反応も混乱なく、『また、できた!!』といった様子で学習を進めていた。